知事コラム　佐竹敬久のさぁ、やるど！

暑い夏、回想

今夏を振り返った時、特に秋田の若者のバイタリティを感じさせられた年でした。

男鹿の『ナマハゲロックフェスティバル』に招待され、かみさんに「あんた、今日はばかに若作りの服装だこと」と言われながら、のこのこ出かけました。

開会のあいさつがあり、なんとなく場違いかなとも思いましたが、「エルビス・プレスリー」や「ビートルズ」、「ローリング・ストーンズ」で知られるように、「ロックミュージック」とは、そもそも私の若い頃に発祥したもので、当時夢中に聞いていたことを思い出し、俺達世代こそロックの元祖の時代を生きて来たんだと、年甲斐もなく相当なノリであいさつしたところ、「やんや、やんや」の大喝采、気を良くして会場を回ると地元の青年の方々が裏方として、真夏の太陽の下で汗だくで頑張っている姿を目にしました。

聞くところによると、地元の青年達が２００７年に自主的に企画運営したのが始まりで、今では県外からも大勢のファンが押し寄せるビッグなものに発展したとのことです。

また９月初めには、ビッグスターの仲間入りした秋田県音楽大使で横手市出身高橋優君の『秋田ＣＡＲＡＶＡＮ　ＭＵＳＩＣ　ＦＥＳ　２０１６』が横手市の「グリーンスタジアムよこて」で開催され、暑いなか、県内外から大勢のファンが押し寄せました。

この企画も音楽事務所側がリードして実現したものの、実行委員会に地元の青年達も大勢参加し大変に難儀しながら一緒にビッグフェスティバルに仕上げたものです。

そして、先日には秋田市「なかいち広場」と広小路、千秋公園を会場に、昼は様々なイベント、夜は「千秋花火」と銘打った花火大会が催されました。

今年で２回目で、ＮＰＯ法人あきた元気倶楽部という若者グループが主催しているもので、今年は天気に恵まれ、様々なご当地グルメの出店も揃ったこともあり、昼から「なかいち広場」周辺はごった返す人出でした。

千秋公園から打ち上げられる至近距離での花火、手の届くようなお堀上での「ナイアガラ花火」に観衆は拍手喝采、大いに魅了され大満足のうちに終わりました。

終わってから、かみさんと「なかいち」内のお店で食事をし、千秋公園沿いに歩いて帰りましたが、途中でなんと、元気倶楽部の面々がゴミ袋持参で会場付近のゴミ拾い、中にはどこかの若社長も居ましたし若手市会議員の顔も、大きなイベントをやり遂げる実行力も感心だなと思っていましたが、ゴミ拾いまで自分たちで、ますます感心させられました。

秋田の活性化、もちろん様々な議論も必要ですが、外を知らず「ああだ、こうだ」と難しいことばかり言っている御仁には解らない世界もあるのです。

参加し行動し実践する秋田の若者達に、明るい未来を感じさせられた夏でした。